

研究課題：映像制作を用いた人文学的教育に関する基盤整備

本研究は、(a) 上田学、長谷川弘基、中山文、宇野文夫の各ゼミの教員と有志学生が協働した、地域を題材とした映像制作・批評の実施、(b) 人文学部独自の映像制作を実現するための機材の整備、という二つの目的にもとづき、今年度の計画を遂行した。

(a) について、コロナ禍によって、当初計画していたゼミ横断型の映像制作を予定通り進めることができなかつたため、兵庫県内をロケ地とした映画作品の一部を、上田ゼミ単独でグループ・ワークによって再現するという計画に修正した。具体的には、10月に篠山、宝塚、三宮、淡路島の兵庫県内各地で、5作品（『美味しんぼ』、『阪急電車 片道15分の奇跡』、『愛情物語』、『神戸在住』、『亜人』）の一部を再現するロケーション撮影を実施し、武田峻彦氏（神戸芸術工科大学・助教）の指導のもとで編集を進め、映像として完成させた。その上で、12月に本学経済学部の林隆一ゼミと、オンライン公開にもとづく合同授業を開催し、制作した映像を発表した。

なお(a)は新型コロナウイルス感染拡大にともなう授業日程・方法の変更によって、計画修正を余儀なくされたものの、12月に宇野文夫ゼミによる作曲・演奏（「即興 12/1, 2020」、「絵本のサンタクロース」、「宵狸の馬鹿し合い」、「夏の影」、「明石の目印担当の日常」）を録音し、1月に中山文ゼミの演劇上演（「夏に揺れる、淡藤色と」、「絵本のサンタクロース」、「宵狸の馬鹿し合い」）を上田ゼミが撮影するなど、協同的な映像制作のための撮影・録音は予定通り年度内に実施された。これらの映像・音源は、次年度にあらためて上田ゼミで「絵本のサンタクロース」を中心に編集を進め、作品として完成させた上で、長谷川ゼミによる批評会を予定している。

(b) について、先述の武田氏による映像編集・撮影に関する小講座を、11月と12月にオンライン公開で4回実施した。さらに映像編集用ソフトウェアの使用法に関する、武田氏の講義内容についての動画を作成した。あわせて本研究は、映像編集用PC1台（映像編集用ソフトウェア含む）、4Kデジタルハンディカメラ1台、指向性オンカメラマイク、ワイヤレスマイクを導入し、3号館4階に設置した。従来、人文学部の教員が授業や広報活動で映像を制作する際は、機材に関して本学情報支援センターの教材作成室に依存せざるを得ず、特に今年度はコロナ禍において教材作成室が閉室するなど、不便な状況が生じた。人文学部が所有する映像制作機材の充実は、このような制約を改善するものである。今後、人文学部の関連教員と利用ルールを策定し、教員・学生が授業で自由に使用できるようにすることで、人文学部のオンライン授業、広報活動へのいっそうの活用が見込まれる。

また地域を対象とした映像制作を通じて、学生の人文学的な地域理解の深化を図り、身近な地域が有してきた既存の文化資源を教育に活用する本研究の計画・実施は、神戸地域の映画館文化を対象とした新たな研究構想を生み出した。これは、研究代表者による競争的外部研究費（大学発アーバンイノベーション神戸「神戸の映画館文化の振興に向けた参加型デジタル・アーカイブ構築」神戸市、2020～2021年度）の獲得に結びついた。